

(様式 1)

令和6年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県有峰森林文化公園 森林政策課

2 施設所在地
富山市有峰

3 施設設置年度
平成14 年度

4 設置目的
豊かな森林を有する有峰において、森林と人との密接な関わりの中で創られた森林文化を継承するとともに新たな森林文化を創造すること。

5 施設概要
敷地面積：97,828㎡
主な施設
・有峰ハウス（宿泊施設）：木造平屋一部二階 834㎡
・ビジターセンター（展示室・事務室）：鉄筋コンクリート造平屋 196㎡
・キャンプ場ロッジ（倉庫）：鉄筋コンクリート造平屋 164㎡

6 指定管理者
公益社団法人富山県農林水産公社

7 指定期間
3 年
令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R2	R3	R4	R5	R6
17,357	21,777	22,603	15,106	27,239

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R2	R3	R4	R5	R6
6,013	5,611	7,252	7,799	7,319

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R2	R3	R4	R5	R6
7,229	7,229	7,229	7,229	7,229

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

R5年度と比較し、利用者数は大幅に増加、収入は減少した。
利用者数が増加したのは、SNSによる積極的な情報発信により、有峰への関心が高まったことによる。
収入が減少したのは、6月～11月の週末の天候不順により、有峰ハウスの宿泊客が減少したことによるが、見込み額を超えており、概ね予定どおりである。

(2) サービス向上に向けた取組み

有峰ハウス職員と常時意見交換し、クレームに対しスピード感をもって適時適切にサービスの提供を行った。また、要望事項の検討を行い、電気温水器の修繕交換など改善に務めた。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

①宿泊施設（有峰ハウス）については、再委託先業者と常時意見交換し、適時適切な対応に務めた。②ホームページ（ありみネット）については、「今週の写真」「今週のTOPICS」において、適時の見頃情報や、文化活動実績の配信に務めた。またLINEの公式アカウントでの行事案内や有峰新聞の配信、ありみネットへの誘導を行った。③有峰だからこそ観察、感じることができる行事（巨木や水がテーマのもの等）を実施した。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

①アンケート結果

実施方法	有峰ハウスフロントにアンケート用紙を置いて宿泊者に記入してもらう
回答者数	203
結果	総合評価欄 「大変満足」 60.6% 「ほぼ満足」 35.4% 「普通」 3.1% 「やや不満」 0.8% 「不満」 0.0%
結果を踏まえた改善事項	電気温水器の交換をR6年度に引き続き、R7年度でも行う。

②その他利用者の声を反映させる取組み

行事ごとに、アンケートを記入してもらい、集計し、年度末の有峰森林文化村会議に報告し、次年度の計画立案に活かしている。

③主な苦情と対応

なし。

(5) 個人情報保護の取組み

協定書に基づいて職員でダブルチェックを行うなどの情報管理や保護について周知を図っている。

(6) 関係団体との連携

北陸電力主催のイベント「夏休みは有峰で遊ぼう」が主催された際に、北陸電力の広報(ほくリンク)において有峰の宣伝に協力していただいた。

(7) 施設・設備の維持管理

業務委託により、設備等の適正な維持管理を行うとともに、行事の実施前には施設(遊歩道等)の安全確認を行い、倒木の撤去や崩土除去などを行っている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ①有峰ハウス及び有峰ビジターセンターにAEDを設置し、
救急医療に対応できる体制とした
- ②行事实施前の遊歩道の安全確認
支障木の伐採や遊歩道草刈りをした
- ③適切な行動計画の実施
開催日の天候や行事参加者の年齢を考慮したうえで、参加者に負担のかかりにくい行動計画に務めた
- ④クマ対策
クマの遭遇防止や誘因防止のためのチラシ配布、注意看板の設置など

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	6
有	14
無	0
無	0

【トラブルの具体的内容と対応】

無し。

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

令和6年度はコロナ禍を過ぎたこともあり、公園利用者が大幅に増加した。令和7年度においてもさらに増加することが予想されるため、公園利用者の有峰での滞在時間をさらに増やしてもらえるように、利用者に対して、情報発信の充実や有峰独自の魅力を感じられる行事の企画を行っていく。